

# 反核

## 医師の会

### ニュース

第57号  
2014年12月15日(年3回発行)

Physicians Against Nuclear War (PANW)  
核戦争に反対する医師の会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-5-5  
新宿農協会館 全国保険医団体連合会内  
電話 03(3375)5121 FAX 03(3375)1885  
e-mail: panw@doc-net.or.jp  
http://no-nukes.doc-net.or.jp/

## 反核医師のつどい in 福岡の報告

「つどい」現地実行委員長 岡本 茂樹



11月1日～2日、「第25回反核医師のつどい in 福岡」が開催され、二日間で医療関係者207名、一般参加者66名、合計273名の参加者がありました。また、二日目の分科会には、第1に73名、第2に88名の参加がありました。熱のこもった講演と質疑応答の二

## つどいに参加して

山梨大学4年 若松 宏実



私は、今回初めて「反核医師・医学者のつどい」に参加しました。大変勉強になりました。充実した2日間を過ごすことができました。初めに、元朝日新聞文化くらし報道部記者、伊藤千尋さんの講演を聴きまし

記念講演と学習講演1について簡単に報告いたします。伊藤千尋氏(ジャーナリスト・元朝日新聞記者)による記念講演「憲法を活かす・地球を守る」は、特派員として世界中を駆け回った伊藤氏ならではの豊富な経験に基づくものでした。その中の三つの話題を取り上げます。自然エネルギーに転換したドイツ、憲法で原発を禁止したオーストリア、原発を一度も使わずに廃炉にしたフィリピンなどを例に世界から原発が消えている現状と、一時は自然エネルギーの最先端を走っていた日本が、原発に固執するあまり自然エネルギー後進国に陥った事実は示唆に富むものでした。次に、「安全神話」を復活させ原発を推進する安倍首相は「積極的平和主義」によって戦争を推進しようとしているが、「平和学」では



記念講演

戦争がないだけの「消極的平和主義」に対して、戦争につながるものを一つ一つ無くしていくのが「積極的平和主義」であること。最後に、軍隊のいない国コストリカが、軍事費を教育費に差し替え、兵士の数だけ教師を作ろう、兵舎を博物館に変えようと訴えたこと。小国にこそ見習うことは多いようです。額田厚氏(山口大学副学長)による学習講演「私たちは、東アジアにどう向き合うのか」は、中国、韓国、

台湾を股にかけて行動する学者としての講演でした。額田氏は、私たち日本人が東アジアに向き合う前提として、戦前日本の清算あるいは「過去の克服」、歴史認識の希薄さと深まり、そして歴史和解は可能かという命題を取り上げました。安倍首相の尊敬する祖父岸信介は、満州帝国の経営者であり、植民地主義者として日本をアジアの盟主とすることに血道をあげ、敗戦後A級戦犯から逃れ日本国首相として復活し、現在に至る日米軍事同盟と平和憲法の破壊、日本帝国憲法への回帰への道を敷きました。それを阻止できなかった私たちはいま問われていることは何か。額田氏の講演は1時間の枠には収まらないものでした。興味のあ

安倍首相は「積極的平和主義」という言葉がお好きなんだ。同盟国が戦争を始めたら、日本も武器弾薬の補給を手始めに積極的に戦闘行為に加担するのが「積極的平和」の中身のようだが、一般に定着している積極的平和(positive peace)とは意味が全く違う。首相は海外では「積極的平和主義者」を英語で正直に「proactive contributor of peace」と言っているそうだ。proactiveには先取りして行動するというニュアンスがあり、米

ている政治が、岸信介元首相の行った政治であること聴き、日本が戦争に向かうとしていることを再度確認したと同時に、自分に何ができるか今一度考えさせられました。韓国反核医師会の方たちのお話では、普段あまり知らなかった韓国の反原発の運動を知ることができました。日本における韓国の認識は、「日韓問題」というフィルターを介していることが多いと思います。しかし、韓国反核医師会の方たちとお会いできたことで、アジアの平和を共に目指すことができることを確信しました。そして、医師・医学者がその先頭に立つて行くべきだと思いました。

2日目は、「核廃絶と平和問題」を扱った、第1分科会に参加しました。「核配備について、日本が北朝鮮を脅威とみなしているように、北朝鮮も日本を脅威とみなしている」というお話を聴いて、その通りだと思いました。軍備に対して、軍備を拡張することで対抗しては平和は訪れないと思います。日本から率先して核を無くしていくことが大切だと思いました。



## 韓国反核医師の会(DAN)と核廃絶・脱原発で交流

つどいでは、韓国の反核医師の会(DAN)から、共同代表の白道明(ペクドミョン)氏、運営委員の金美静(キムミジヨン)氏と盧泰孟(ノテメン)氏を招聘した。白氏から「韓国の反核運動に

おいての医療人の取り組み」をテーマに、盧氏からは、「韓国反核医師会の調査・研究及び政策活動」をテーマにそれぞれ講演をいただいた。さらに、映像を交え密陽(ミリヤン)送電塔建設地域においての住民たちの人権及び健康の調査活動、清道(チョンド)密陽(ミリヤン)送電塔工事の反対運動に対する連帯活動の報告を受け、額田氏と韓国反核医師のメンバーが一同に登壇し会場からの質疑応答を行うなど、日韓の核兵器廃絶、脱原発、東アジアの歴史問題について交流した。

白道明(ペクドミョン)氏(福岡市都久志会館)



# 第21回 IPPNW アスタナ大会報告

## 「核実験の停止から」

## 核のない世界に」



代表世話人 原 和人

タンは、中央アジア非核地帯運動の中心的な役割を果たしている。このアスタナ大会に、反核医師の会（PINW）から中川武夫共同代表を団長に、通訳2名、添乗員1名を含む22人の代表団が参加した。

2014年8月27日から29日までカザフスタンの首都アスタナで、「核実験の停止から核のない世界に」のテーマで第21回IPPNW大会が開催された。カザフスタンのセミパラチンスク（現セメイ）は、旧ソ連時代に約40年にわたり467回もの核実験が行われた所である。現在、カザフス

今回の大会では、主催者側から参加国、参加人数の報告がなく、全体の参加者の状況は不明である。ただ4年前のスイスのバーゼルでの大会以降、2年前の広島大会、そして今回の大会

と、参加者が減少傾向にある。この間、IPPNWはICAN運動の中心的な国際NGOとして、非核兵器国と共同して核兵器の人道的結末の論議をリードしてきた。全面戦争であれ、地域戦争であれ、いったん核兵器が使用された場合の人道的な結末は、いかなる国際組織、国も人道的支援は不可能であり、かつ、それを回復する手段はなく、人類の生存をも脅かす結末にな

ることが明らかにされた。従って、人類が生き残るためには、核兵器禁止条約という法的枠組みを合意する以外にはなく、ICAN運動のさらなる取り組みの強化が訴えられた。今回もバーゼル、広島大会に引き続き、PANWが主催して「福島原発事故の健康影響」というテーマでワークショップ（WS）を開催した。WSの司会は、武田常任世話人が行った。まず真鍋常任世話人が、PANWのこの間の見解に基づき、年間20mSv以下は安全であるとして、避難者を十分な



代表団（アスタナにて 8月29日）

支援もなく汚染地域に帰還させようとする国や自治体の施策の問題点を指摘し、低線量被爆に関して、正確な情報提供を行うべきであると報告した。次いで、獨協大学の木村真三教授が、福島原発事故における放射能汚染の現状について報告した。

このWSには、参加者が62名となり、他のWSが10名前後の参加者で行われていたことを考えると、もっとも活発に討論が行われ関心と呼んだWSとなった。2年に1回のIPPNWの大会が開催される間年には、地域会議が開催される。IPPNW大会の中日に、北東アジアの地域会議が開催された。地域会議の対象は、日本、中国、韓国、北朝鮮、モンゴルであるが、残念ながら日本以外の

参加はなかった。地域会議では、朝長万左男先生が引き続き地域代表として承認され、今後、各国との連絡を行うとともに、来年、日本で北東アジア集会を開催することを検討することが確認された。

## ワークショップの報告

常任世話人 武田 勝文



対する抗議声明を英文で紹介した。また、獨協医科大学の木村真三准教授からは、福島原発事故後の現状を紹介し、活発に討論が行われた。

### 眞鍋穰医師の報告概要

#### 報告概要

8月27日PANW（反核医師の会）はカザフスタンのアスタナで開かれた核戦争防止世界医師会議（IPPINW）の世界大会にて福島原発事故の健康影響をテーマにワークショップを開催し、62名が参加した。講師の1人である眞鍋穰医師からは、反核医師の会（PANW）の政府帰還政策に

①PANWの医師は避難者を十分な支援もなく汚染地域に帰還させようとしている政策に強く反対する。具体的には100ミリシーベルト以下「安全」論を撤回し、低線量被ばくの健康

### 獨協医大 木村真三 准教授からの報告概要

福島事故による内外被曝の影響については長期的な健診調査が必要になってくる。福島県では6月までの

影響についての最新の知見、国際的動向を重視し、その情報についても住民に隠さず伝えること。②年間20ミリシーベルト迄を「帰還可能水準」と許容する提示は撤回し、帰還できる条件について住民との間で十分な情報提供による協議の場を設け、政策決定に反映させること。③個人線量計による計測結果を重視する基準値設定と被ばく管理の住民押し付けをやめること。などについて訴えた。

18歳以下に対する健康管理調査で29万5689名が検査を受け103名の甲状腺がん、または疑いが出て、このうち58名に手術が行われた。チェルノブイリ事故のあとの周辺住民において牛乳、きのこ、ジャガイモ、トマトなどの摂取が内部被曝を増加させた。ベラルーシのブレスト市で2008年〜2012年に890人の甲状腺がんが見つかった。そのうち女性が84%であり、18歳以下は1・6%で残りは成人であった。福島事故後の健康調査は長期に続け、疾病の早期発見対処が求められる。また福島でかなりの自殺者が出ているが、心のケアも重要な問題である。

## ワークショップ 討論

反核医師の会常任世話人 眞鍋 穰

### 〈ドイツ医師〉

Q 日本の医師は一般的に原発は、反対か？

A（眞鍋答弁）PANWは、原発にもちろん反対であるが、一般的な医師には、核兵器に反対でも原発には様々な意見の違いがある。

〈ティルマン・ラフ共同会長〉

Q 国はいつ20mSv／年の地域に住民を戻そうとし

ているか？

A（武田勝文先生答弁）できる限り早くです。

A（眞鍋答弁）そう、できる限り早く（as soon as possible）です。20mSv／年なら住み続けても大丈夫だという宣伝を、一般住民対象にパンフレットを作って宣伝をしているし、戻れば一律90万円支払うとしている。

Q 福島県以外の被曝者や18歳以上の住民への健診体制など質問

A（眞鍋答弁）国は甲状腺がんの発生に焦点を当てた調査をしており、政府の責任での健康調査は十分ない。

〈インド医師〉

Q なぜ国にたいして法的な手段（裁判闘争）を取

らないのか？

（木村真三先生の報告も最後が地元に残って焼身自殺された家族の裁判闘争勝利の報告であった）

A（眞鍋答弁）私自身は、被爆者の医療訴訟（多重ガソリンなどが原爆のためである）と国に認定を求める裁判を支援しているが、直接PANWとしては国にたいして福島の問題で法的な闘争をしていない。

〈マレーシア〉海洋汚染の影響を危惧する質問

A（木村先生答弁）海底に汚染物質が溜まっている、それを食べる魚は汚染がひどいが、海洋表面だけの汚染の測定結果を宣伝している。市場に出すものは一応基準値をクリアしているとされている。







# 各地の反核医師の会から

近畿反核医師懇談会

## 「暴走飛び越え

## 『迷走』する安倍政権」

柳澤 協二氏が講演

近畿反核医師懇談会は9月28日に柳澤協二氏（元内閣官房副長官補）を招き「集団的自衛権をめぐる閣議決



講演する柳澤協二氏

命令した経験を持つ元政府高官。その立場から安倍政権による集団的自衛権の行使容認の閣議決定について、「安倍政権の安保政策は、暴走を飛び越えて『迷走』と呼ぶに値する」と指摘。

安倍首相は「隣の友人が殴られたら守ってやれないのか」また、尖閣諸島を巡る中国との衝突を巡り、2013年2月、米国の星条旗新聞で「誰も住んでいない岩のために私たちを巻き込まないでくれ」と安倍政権の対中外交を非難する記事が掲載され、直後に行われたオバマ大統領との会談でも尖閣を巡る対応を諫められたことが紹介された。

柳澤氏は、北東アジアの緊張関係について、中国と米国の相互依存の経済関係の下では戦争による利益より損失の方が甚大になってきており、沖縄に海兵隊が存在する軍事的意味がないことが国際的な常識とされていることが紹介された。

こうした安保環境では、日本政府は、沖縄に基地が集中すること、普天間基地を辺野古に移設する軍事的な意味はないことを米国に堂々と主張すべきであると述べた。

北朝鮮の瀬戸際外交について、ミサイル発射などの挑発行為は、暴走族の論理」とし、挑発に応じず、日本政府としては、戦後70年の非戦体験や平和国家のブランドを掲げ、安保条約が破棄できるようなアジアの関係構築を目指すべきと持論を述べた。その上で11月16日の沖縄県知事選に基

## 住民の生命を守る医療人として

— NPTへ大阪歯科だけで1万筆の署名を！ —

常任世話人 中村 新太郎

9月の協合理事会で、「大阪歯科協会だけで1万筆の署名を集めよう」と提起しました。来年ニューヨークで開かれるNPT（核不拡散条約）再検討会議に向けての「核兵器全面禁止のアピール署名」のよびかけです。

核兵器の非人道性の問題をテーマにした第一セッションへ。反核医師の会（PANW）会員として会の役割や立場を再確認し、「核兵器なくせ」の世論を広げるとともに大阪府下で目標とされている100万筆署名に尽力したいと決意を固めました。理事会での提起のあと、理事役員はじめ大阪歯科の先生方、事務局が思

いに応えてくれ、1カ月足らずで1200筆超が集まっています。年金、休保などでお世話になつてい

る生保会社の社員の方や支社長



10/5原発ゼロの会大阪・結成3周年のつどいの会場前で署名行動に取り組む筆者

り、わたしの診療所のある富田林市の金剛地域で、9条の会を立ち上げようとい

届きたいと思います。

### 会費納入のおねがい

本会は、会員のみならずの会費と、主旨に賛同いただいている募金によって運営しています。今年度は例年開催の「つどい」のほかに、IPPNW世界大会への代表団の派遣、ワークショップの開催と講師派遣など、例年以上に活発な活動を展開しています。2014年度（2014年4月1日～2015年3月31日）会費納入がまだお済みでない方は、ご入金のほど、よろしく願いいたします。

会費は 個人会員（医師・歯科医師、医学者）10000円 医・歯学生会員 1000円 賛助会員 1000円  
振込先 ◇りそな銀行 新都心営業部 普通 1557502 「反核医師 医学者の集い」  
◇ゆうちょ銀行（他銀行からの振り込みの場合）〇一九支店 当座 0056764 「反核医師・医学者の集い」  
◇郵便振替 00170-7-56764 「反核医師・医学者の集い」

### 読書案内

## 「医師たちのヒロシマ復刻増補版」の「一読を

反核京都医師の会 木村 敏之

最近、原子力発電再稼働に関し気になる提言が出た。平成26年9月19日、日本学術会議の幹事会が高レベル放射性廃棄物問題への社会対処の前進のために「高レベル放射線廃棄物の処分に関するフォー

ローアップ検討委員会、暫定保管と社会的合意形成に関する分科会報告書」の中で科学の限界の自覚を促すとともに再稼働問題の総合判断では「原発の新規発生分の高レベル放射性廃棄物について、当面の暫定保管の施設を事業者の責任で確保することを必要条件に判断すべきである。その点をあいまいのままの再稼働は『現代世代の責任の原則に反し』、将来世代に対する無責任を意味するもので容認できるものでない」と少し長い引用をしたが、この提言は日本の科学者の良心を示したものであり原子力委員会への再認識を迫るものと評価する。

一方アメリカでは1960年当初核の平和利用が進む中、健康を守る医師たちの反核意識が5060年前から燃え上がり、予防医学の新たな領域として「社会的責任を果たす医師」(Physicians for Social Responsibility: PSR) 活動が広がりに、世界が東西対決(冬の時代) に核の恐怖を感じる二人の心臓専門医・バーナード・ラウソ博士(米)、エフゲニ

ー・チャゾフ博士(ソ)が共同創設者となり、1981年IPPNW・核戦争防止国際医師会議が生まれたことは皆さんもよくご存じでしょう。1982年には京都に核戦争防止・核兵器廃絶を訴える京都医師の会(反核京都医師の会)が設立

発足し、1988年に今回反核京都医師の会設立30周年を記念し、改めて反核運動に弾みをつけるべく初版に続く核に対する思いをそれぞれ個人の考えも盛り込み復刻増補版を発行した。京都医師の会はもともと反核医師の会(PANW)にも所属している医師も多く幅広く活動していたこともあり批判的に国の原子力発電政策にも対処していたが、警告が現実となり大変残念なことである。数々の自然災害の起る中、核のごみ処理問題を未解決のままの核兵器拡散、原発再稼働はあり得ない暴挙である。先生方には是非復刻版を手にとっていただき貴重なご意見をいただければ幸いです。



つむぎ出版刊。2,160円(税込み)。問い合わせは京都府保険医協会 ☎075(212)8877

う流れの中で女性団体や地域の方々などが協力してくれるなど、新たなつながりが広がる機会にもなっています。

放射線による被害は治すことができないなら、わたしたち医療人の務めは予防すること。住民の生命を守ることが仕事である医療人にとって、核兵器廃絶の署名を集めることは、本来の仕事に對し、そう遠いこととは思いません。NPTまであと6カ月。大阪歯科だけで1万筆の署名を達成し、ニューヨークの国連へ届けたと思います。